

## 《薬局サーベイランスコメント》

『インフルエンザの患者数は8週間連続で減少、学校等の春季休暇の影響によってさらに患者数は減少していくと予想される』

2019年3月26日  
済生会中津病院感染管理室  
安井 良則

今シーズン（2018/2019年シーズン）の2019年第12週（3月18日～24日）のインフルエンザの推定患者数は、89,258と前週の値（105,953）よりも減少し、第5週以降8週間連続しての減少となりました（図1）。また、週明けの月曜日（2019年3月25日）の推定患者数は15,995と前週の月曜日の値（22,046）を下回っており、インフルエンザの患者数は更に減少していくものと予想されます。

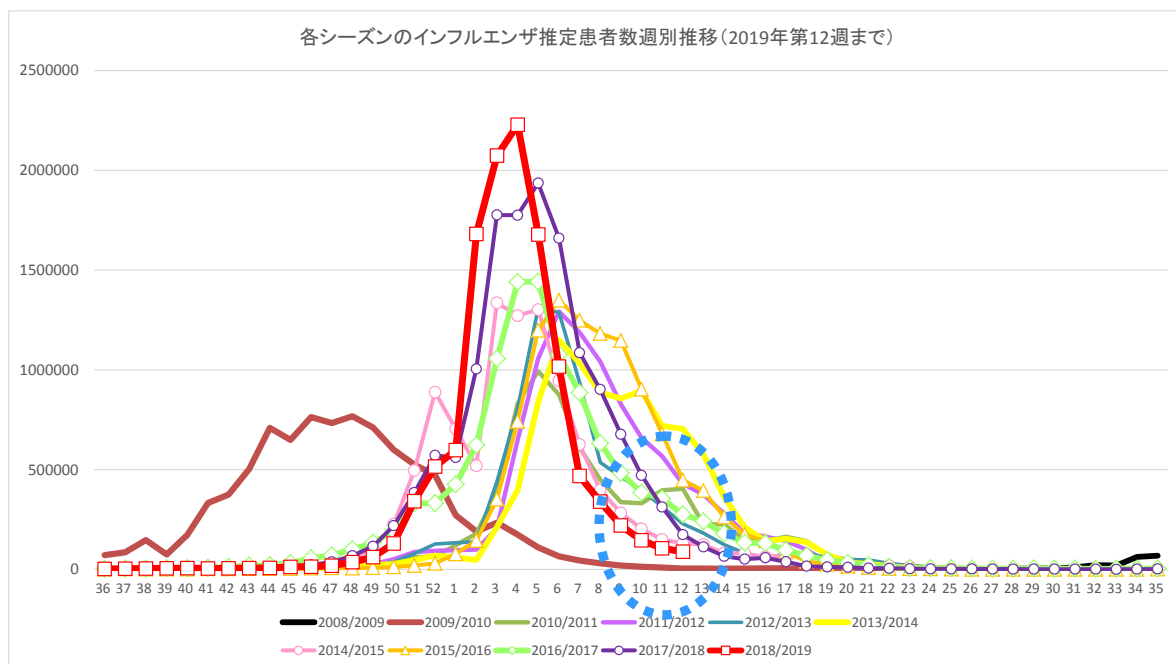


図1. 過去10シーズンと今シーズン（2018/2019年シーズン）の第36～第12週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移（2019年第12週の推定患者数：89,258）

各都道府県別の第12週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると秋田県、福井県、北海道、青森県、香川県の順となっています。

2018年第36週から2018年第12週までの累積の推定患者数は11,819,541であり、2018年10月1日現在の人口統計を元にした累積罹患率は9.33%でした。年齢群別の累積罹患率は5～9歳（31.23%）、10～14歳（22.93%）、0～4歳（22.22%）、15～

19歳（12.09%）、30～39歳（9.83%）、20～29歳（9.15%）、40～49歳（8.60%）、50～59歳（7.01%）の順となっています（図2）。

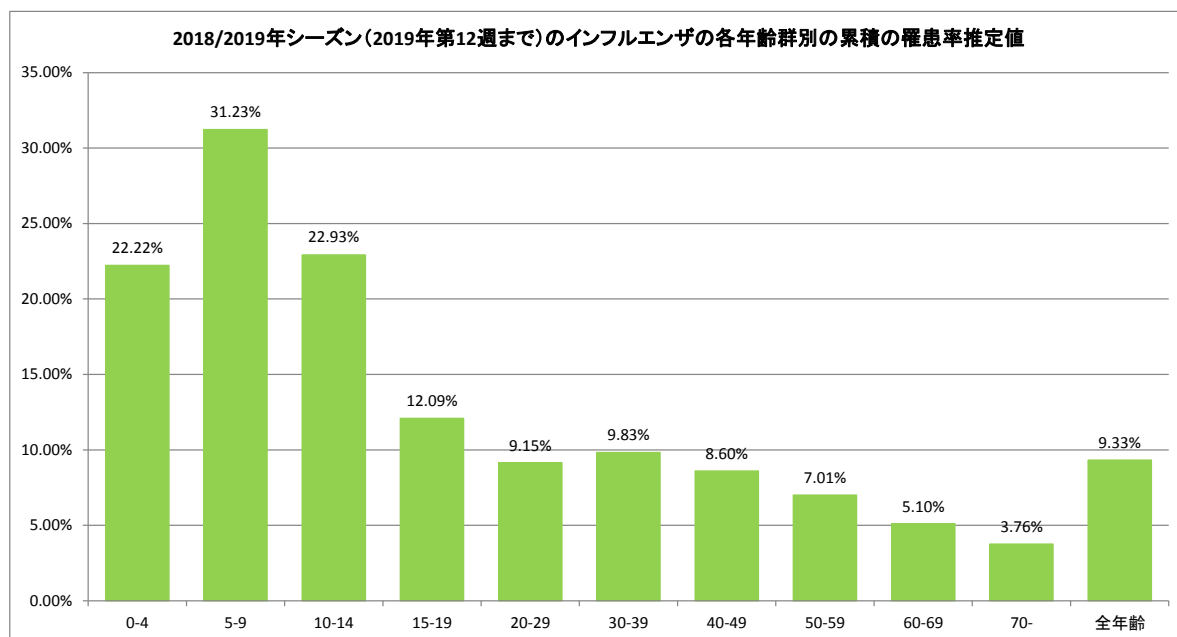


図2. 各年齢群のインフルエンザ累積罹患率の推定値(2018年第36～2019年第12週、累積推定患者数=11,819,541)

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報 (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>) によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス(5,108検体解析)の検出割合は、A/H3(A香港)亜型53.4%、A/H1pdmが45.1%、B型1.4%となっています(図3)。

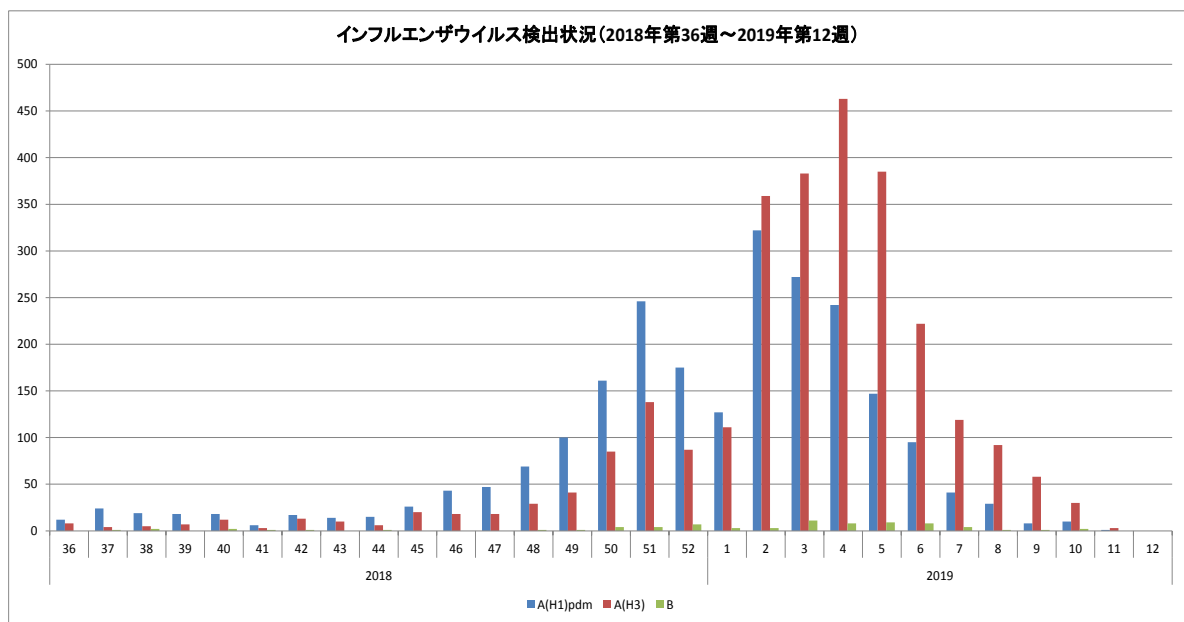


図 3. 国内のインフルエンザウイルスの検出状況の週別推移（2018 年第 36 週～2019 年第 11 週：国立感染症研究所病原微生物情報 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html> より得られたデータを解析；総検出ウイルス数 5,108）

2019 年第 12 週のインフルエンザの推定患者数は約 8 万 9 千人と 8 週間連続して減少が見られました。既に学校等は春季休暇に入っており、インフルエンザの患者数は更に減少していくものと予想されます。